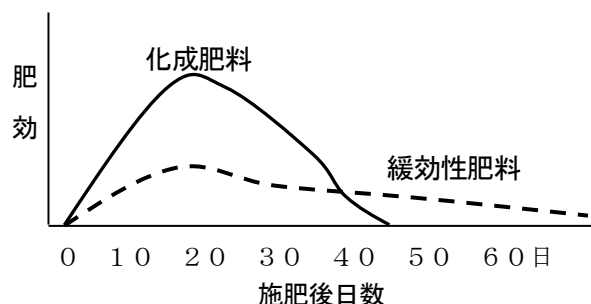


FW肥料の散布時期

春は5月頃まで寒暖の差が激しく、FWに肥料を散布しても効きが悪いことがあります。その多くの原因は、低温と乾燥ですが、今回は春肥料の散布時期を考えたいと思います。

1. 肥効のピーク

粒状肥料を散布するとどのような肥料でも20日後が最高に効いています。これは一般的な化成肥料、有機化成肥料、緩効性肥料でも同じです。右図のように肥効のピークは散布後20日頃ですが肥料の種類によって効き方は異なります。



2. 色々な散布時期

①早急に緑化を早めたい

関東以西の地域では、4月中旬に尿素か液肥を散布し、5月上旬に粒状肥料を施肥すると良いでしょう。4月に予備施肥をし、芝の活性が高まった状態で施肥すると肥料がよく効きます。

②芝密度を高めたい

コウライシバの密度が高めるのは、6/下から8/中です。しかし、梅雨が明けると土壤の乾燥で肥料が効きません。したがって6月下旬から梅雨明けまでに施肥をする必要があります。

③刈り取りを軽減したい

前述の肥効ピークから考えると、梅雨入り30日前頃に施肥するか、梅雨明け15日前頃に施肥する必要があります。ただ、芝の伸びは、降雨に大きく影響されるので、排水を良くしておくことも重要です。

3. アルバのおすすめ肥料

①TGアンカーMP044FR有機(20-4-4)

どのようなFWでも対応できるメチレン尿素+有機の緩効性肥料

②TGアンカーMP900FR(39-0-0)

100%メチレン尿素なので、刈り取り軽減、年1回施肥も可能となる肥料

③ターフメイトHM844(18-4-4) コストパフォーマンスに優れた緩効性肥料

④ターフスパイス(8-8-8) 抗菌型バチラスを使用したサッチ分解肥料

⑤スリムユーキ(10-3-3)

現在のFWの成分状態に合わせて、成分も価格もスリムにした肥料。ゼオライトが入っているので肥料成分の流亡が少ない。

芝草漫遊記

近年の春(5月)は乾燥した北の高気圧が下りてきて、このタイミングで施肥をしたコースは肥料の効きが悪くなります。効かなくても土壤には肥料が残っていますが、後で気温が上がっても効いてきません。不思議です。